

## 「主イエスの死への勝利の復活」ヨハネ11：25—26 堀田修一 20・4・12

### I 主イエスの十字架の恵み

「キリストは自ら、十字架の上で、私たちの罪（人を殺すほどの怒り、憎しみ、うらみ、ねたみ、うそ、不正、悪口、陰口、偶像礼拝他）をその身に負われた」I ペテロ2：24。主は、私達を愛し、私達の罪の刑罰を十字架で、身代わりに受けて死なれた。その主イエスを救い主、主と信じる者に罪の赦しと永遠の命を与えて下さる。

### II 主イエスは十字架で死なれたままではなかった。死に勝利し、復活された。

「主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義（無罪、神との正しい関係の回復）と認められるために、よみがえられました」ローマ4：25

主イエス御自身の力強いみことば＝「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きる（神の時に復活する）のです」ヨハネ11：25

「死は勝利（主の復活）に呑み込まれた。」I コリント15：54

「神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利（罪、悪魔、死への勝利）を与えてくださいました」15：57

### III 主イエスは、今、どこにおられる

1. 天の父なる神の右に着座され、私たちのために、とりなしておられる。「よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです」ローマ8：34

2. 復活の主は、試練、苦しみの中、私たちとともにおられ、私たちを強め、励まして下さる。今も、試練の中で共にいてくださる主「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」マタイ28：20

3. 復活の主は、主を信じる私たちの心の中に生きておられる。「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子を信じる信仰によるのです」ガラテヤ2：20

4. 復活の主は、福音を伝える時、共に働いて下さる。

「弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしるしをもって、確かなものとされた」マルコ16：20

パウロの証言「私は、異邦人を従順にするため、キリストが私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かをあえて話そうとは思いません。キリストは、ことばと行いにより、また、しるしと不思議を行う力と、神の御霊の力によって、それらを成し遂げてくださいました。こうして、私は…福音をくまなく伝えました」ローマ15：19

### IV 主イエスを信じて亡くなった人の魂は、主イエスが、ともにいてくださる天国に行く

1. 「おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことは何もしていない。」そして言った。「イエス様。あなたが御国に入るときには、わたしを思い出してください。」イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイス（天国）にいます」ルカ23：41—43

2. 「私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。そのほうが、はるかに望ましいのです。しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためにはもっと必要です（パウロには、主を伝え、牧会する神からの使命が残っていた）」ピリピ1：23, 24

3. 復活の主を信じている私たちにとり、死ぬという事は、希望の無い滅びの暗闇に行く事ではなく、主が共におられる天国に行くという希望のある恵み。それ故に、主にあるお互いが、死を迎える時、「天国で、また会いましょう！」と希望に満ちて言う事が出来る！

V 世の終わりに主イエスが再臨される時、既に天国にいる魂は、栄光の体をいただく。主の再臨の時にこの地上に生きているキリスト者は、心の罪は、なくなり栄化され、栄光の体をいただく。使徒信条＝「身体（からだ）のよみがえりを信ず」。主の再臨の「ラッパが鳴ると、死者は朽ちないもの（栄光の体）によみがえり、私たちは（栄光の体に）変えられるのです」Ⅰコリント15：52

VI 主を信じて、死を迎えるまでの間、地上で、私たちは、復活の主に強められ続けて生きる事ができる。「私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできる（あらゆる境遇に対処する事ができる）のです」ピリピ4：13。この御言葉を原語に忠実に訳するなら、「私に力を注入し続けて下さる方によって、私はすべての事に当たる事が出来る」と訳する事が出来る。これを語ったパウロでさえ、最初から、こう言えたのではない。鞭で打たれ、石で打たれ、川の難、盗賊の難、同胞から受ける難、異邦人から受ける難、偽兄弟による難、信頼している人から見捨てられる痛み、たびたび眠らずに夜を過ごし、飢え渴き、労し苦しみ、過酷な試練、自分の弱さを認める事、主の力は、弱さの内に完全に現れる事の体験、主の御言葉の力の体験、復活の主との個人的な親しい交わりを通して学んで行った。復活の主は、どんな境遇、試練にも、どんな出来事にも、対処できる力を与えられる。人生には、二種類の対処がある。

①何か苦しみに会うと、「どうして私に、こんなことが起こるのだろう」という自己憐憫に陥る。その感情に支配され続けると、鬱状態になる。

②何か苦しみに会うと、自分一人で抱え込まないで、私を強くして下さる復活の主と共に対処し受け止める  
＝ i この苦しみ、試練は、偶然ではなく、神の御手にあって、意味がある事と正しく受け止める。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ10：29。

ii この苦しみ、試練、弱さは、自分の弱さを本気で認めさせ、へりくだり、もっと私達を神に抛り頼む者に変える。苦しむ人に寄り添い、思いやる人に変える。「様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。…信仰が試されると忍耐が生まれます」ヤコブ1：2, 3。「私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みさえ失うほどでした。実際、私たちは死刑の宣告を受けた思いでした。それは、私たちが自分自身に頼らず、死者をよみがえらせてくださる神に抛り頼む者となるためだったのです」Ⅱコリント1：8, 9。

iii 神はすべての事を働かせて益（私達を神にもっと近づかせて下さる益）として下さると正しく受け止める。

③今も生きて働いて下さる復活の主は、

i 赦せない愛せない人を赦し愛する新しい心を下さる。

ii 主は、私たちの敗北を勝利に変えて下さる。主の十字架の死は、人間の目から見れば敗北だった。しかし、その十字架の死こそ、私達の救いの成就だった！